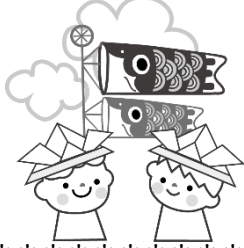


\*\*\*\*\*



# けやき

令和4年

# 5月

さいたま市立 大宮北小学校 学校だより

\*\*\*\*\*

## 新たな「あたりまえ」のために

校長 渡辺 明

卒業式の頃には隙間の目立った校庭のけやきも、すっかり緑の若葉が茂って、爽やかな風が吹き抜けてゆきます。風薫る五月となりました。季節によって姿を変えるシンボルのけやきが、今日も北小の子どもたちを見守っています。新年度が始まって3週間。新しい環境に慣れた頃にやってくるのがGWです。子どもたちも楽しみにしています。

学校では、年間の計画に基づいて様々な教育活動を行っていますが、今年度は例年と違う内容で進めています。年度当初にお知らせしましたが、1学期末からリフレッシュ工事が始まるためです。プール学習が終わるタイミングで、プールと体育館の改修工事に取り掛かります。これが2月末までの予定ですので、その間は体育館が使用できません。また、工事車両や資材が校庭に入るため、使用できるスペースも制限されます。そこで運動会を1学期に行うこととし、2学期以降の学校行事も、体育館を使用しないプランで計画中です。感染拡大防止の取組も継続中ですが、学校行事の一つひとつの意義を大切に、子どもたちの気持ちも汲み取りながら進めていきたいと考えています。なお、卒業式については、きれいになった体育館で行うことができる予定ですので、ご安心ください。



さて、話はかわりますが、今年度から北小に「学校運営協議会」が設置されます。これはさいたま市におけるコミュニティ・スクール制度導入を受けたものです。これまでにあった「学校評議員制度」が「学校運営に関して地域住民や保護者等の意見を聞くための制度」であったのに対し、「学校運営協議会」は「校長が作成した学校運営に関する基本的な方針を承認するなど、地域住民や保護者等が学校運営に参画し、連携・協働して学校運営に直接関わる仕組み」です。さいたま市のマニュアルから、期待される効果をまとめると次のようになります。

### 【学校にとってのメリット】

- ・地域住民や保護者等と学校が、顔が見える関係となり、地域住民や保護者等の理解と協力を得た学校運営が実現する。
- ・学校の現状や運営方針について理解が深まり、地域住民等が学校の応援団となる。
- ・学校が地域住民や保護者等と一緒に諸課題に対する対応を考え、実行に移すことができる。
- ・地域人材を活用した教育活動が充実するとともに、学校、家庭、地域の役割分担が図られることで、教職員が子どもと向き合う時間の確保につながる。

### 【地域住民や保護者等にとってのメリット】

- ・地域住民や保護者等も子どもたちの「教育の当事者」となり、責任感をもって積極的に子どもへの教育に携わることで、保護者同士や地域の人々とのつながりが生まれる。
- ・保護者にとっては、学校や地域に対する理解が深まることで、地域の中で子どもが育てられている安心感が生まれる。
- ・「人生100年時代」を迎え、高齢者を含めた地域の方々豊かな知識や経験、技量を学校の教育活動に取り組み、活躍の場を創出していくことで、一人ひとりの生きがいや自己有用感をほぐし、地域の力を高めていく。

教育改革を「自動車を運転しながら故障を修理するようなもの」と例える言葉もあります。教育に限らず社会全体の変化の流れが急加速しており、過去の「あたりまえ」が、将来の「あたりまえ」であるとは限りません。学校の「あたりまえ」も同様です。学校と地域、保護者、そして何より子どもたちにプラスになる「あたりまえ」の最適解を、共に考えていきたいと思ひます。